

「自治会ニュースコンクール2016」講評

(2017/03/11 審査委員長)

本コンクールは2011年度に生駒郡、北葛城郡の2郡を対象にスタートした。きっかけとなったのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災である。家族、親族、友人、ご近所さんの安否確認をはじめとする地域内での情報の伝達、共有手段として最も威力を発揮したのは、避難所に掲示されたり配布された紙媒体であり、その重要性を再認識させられたからである。

コンクールはその後年々対象地域を広げ、2014年度から全県コンクールとなった。

今回応募があったのは、8市6町の37自治会・大字・自治連合会。

特徴的なのは、地域が大きな広がりを見せたことである。応募団体数は前年度より13団体増えた。その中に、本年度にニュースを創刊・復刊した自治会が5団体あった。創刊は三輪区自治会（桜井市）、すみれ野自治会（香芝市）、東信貴ヶ丘自治会（三郷町）、紅葉ヶ丘自治会（斑鳩町）。また光ヶ丘自治会（平群町）は5年ぶりに復刊した。

本コンクールへの関心が広がっていると思われる、コンクールに携わる者としてうれしいことであった。

今回、特に印象を受けたのは次の2点である。

- ① 絶対評価で上位にランクされるニュースが多かった。自治会ニュースにガイドライン的なものはないが、それぞれの自治会に、少しでも良いものを、少しでも地域活動の活性化に繋がるものを、という意欲が見て取れた。
- ② 地域の高齢化により、生活の安全・安心面への危機感が増し、防災・避難対策への取り組みが一段と広がっている。

自治会、大字にはそれぞれの事情があり、住民の意識やマンパワー、費用などの問題から、ニュースを発行していないところも多いと思われるが、発行が増えていくことを期待したい。また、自治会ニュースの意義を考える時、回覧しているところではできるだけ全戸配布を目指してほしい。

なお、『審査委員奨励賞』は評価基準にとらわれず、各審査委員が独自の視点から奨励の意味で選んだものである。

最優秀賞

◆「まみがおか」（香芝市／真美ヶ丘自治会）

全県コンクールとなって連続で最優秀賞を獲得してきたが、その紙面づくりは揺るぎない。レイアウト、見出しの表現、掲載記事の選択、読みやすさ、企画性のすべてをバランスよく備え、しかもクオリティが高い。1500世帯という規模の大きい自治会で、顔の見えにくい関係をうまく「見える化」し、まとめ上げる役割を果たしていると感じる。自治会と地域の活動がよく伝わってくる。住民に自治会活動への参加意欲を起こさせているのではないか。

毎日新聞社賞

◆「西真美だより」（香芝市／西真美自治会）

トップページに目を引くカラー写真と目次。つい手に取ってみたいくなる。自治会活動と関係団体の豊富な情報を丁寧に集約しており、すっきりしたレイアウトで、自治会ニュースの王道を行っている感がある。迷惑駐車パトロール実施報告がユニーク。数字を示して注意を喚起しており、説得力がある。最終面は子育て世代の交流のページで、楽しさにあふれている。高齢者と若い世代への目配りが感じられる。地域の実情を映した紙面づくりは見事。

優秀賞

◆「星和台ニュース」（河合町／星和台自治会）

祭りやバス旅行など住民の関心が高い記事を大きく取り上げ、地域を盛り上げようとする意欲が伝わってくる。内容は多岐にわたるが、組み立てがしっかりしており、絆と安全な地域づくりというコンセプトが具現化されている。防災ニュースに2ページを割いているのが特徴的。読みやすさに神経を分かっているのだろう。カラー写真が以前よりずいぶん綺麗になった。

◆「泉台ニュース」（河合町／泉台自治会）

今年度は素人の女性3人で作ったということだが、そんなことを感じさせない安定した紙面。トップページに掲示板的機能を持たせたレイアウトと豊富でキメ細かな情報量は、追従を許さないものがある。読み物としての面白味を盛り込んだり、見せ方を工夫することで、さらに良くなる余地を残している。1969年から毎月欠かさず発行してきたことに、敬意を表したい。

◆「ふれあい」(奈良市/東登美ヶ丘地区自治連合会・社会福祉協議会)

自治連合会という性質上、単位自治会のニュースとは違った難しさがあると思うが、“奈良府民”が多いベッドタウンという状況を踏まえた記事選びと企画性が素晴らしい。待機児童やリニア新幹線といった時事問題を地域に引きつけて考える企画記事は、読みごたえがある。紙面はすっきりして読みやすく、楽しさもある、自治連合会ニュースの一つの見本となり得るだろう。

◆「緑ヶ丘自治会だより ～あいさつのある緑ヶ丘～」(生駒市/緑ヶ丘自治会)

カラー写真をうまく使い、デザインで見せて読ませる紙面になっている。自治会情報から身近な問題、イベント情報まで、多様な情報がバランス良くコンパクトに収められている。行政への要望も丁寧に載せ、地域で問題を共有し合おうという姿勢が明確。シンプルだが、記事選びからデザインまで手間暇かけていることがうかがえる。

◆「久美ヶ丘 かわらばん」(河合町/久美ヶ丘自治会)

大きい活字ポイントと余白。カラー写真もシャープ。非常に見やすく、手に取りたくなるレイアウト。イベント開催からゴミや防災のお知らせまで、生活上役立つ情報が網羅されている。毎月の廃品回収実績に金額を含めた詳細を載せているのも親切。題字横に、季節の花をカラーであしらっているのも良い。企画記事があれば、さらにランクアップが望めるだろう。

審査委員奨励賞

★カレンダー賞「小明台だより」(生駒市/小明台自治会)

A4判両面2ページ。表はカラー写真を使い、巧みなレイアウトで出来事や案内をコンパクトにまとめている。裏面は全面「自治会カレンダー」。このカレンダーが秀逸。余白部分への吹き出しや、強調したい予定を別立てで箱組みにしたセンスに感心させられる。

★復活賞「光ヶ丘自治会だより」(平群町/光ヶ丘自治会)

5年前に発行が途絶えたが、改めて自治会ニュースの必要性を感じ、昨年復刊させたという。新興住宅地であり、地域への愛着や絆を育むため、クイズ形式で神社、仏閣、古墳などの写真を載せたり、「みんなの広場」を設けるなど、知恵を絞っている。頑張って続けてほしい。

★シンプルで賞「NEWS 団地力」(大和郡山市／郡山駅前団地自治会)

見出しが飛び出してくるようだ。A4判1ページだが、カラーをうまくあしらっている。シンプルであるがゆえに訴える力が強い。駅前の団地内であることを考えると、これも一つの手法だろう。自治会は会費を徴収せずに運営しているという。全戸配布にできたら、と思う。

★郷土愛賞「三輪区コミュニティ新聞 馬酔木」(桜井市／三輪区自治会)

昨年9月に創刊したばかりとは思えないデキで、優秀賞とは僅差。縦組みと横組みを組み合わせるのを避け、最終面に行事予定を置き、読みやすさに留意している。何よりも、大神神社(おおみわじんじゃ)を中心に郷土の歴史や行事を取り上げ、共に生きる誇りと郷土への愛が感じられる。

★敢闘賞「西長柄町通信」(天理市／西長柄町自治連合会)

毎月のペースで発行し、毎回1000部を全戸配布していることを評価したい。モノクロA4判両面。何の変哲もないように見えるが、写真をうまく配置し、見出しのカットにも変化をつけ、読みやすくしている。高齢者と子どもへの目線が感じられる。

★IT賞「内膳町 自治会通信」(橿原市／地縁団体 内膳町自治会)

カラー写真が鮮やか。活字ポイントが大きく、レイアウトにも工夫が見られる。優秀賞と大きな差はない。全戸に1000部配布しているが、ホームページにはバックナンバーを掲載。その上、祭りの写真約300枚をダウンロードできるようにするなど、IT利用に積極的。担当者の奮闘ぶりがうかがえる。

★ミニコミ賞「すみれ野通信」(香芝市／すみれ野自治会)

昨年4月に発足した新しい自治会。すぐホームページを立ち上げ、自治会ニュースを発行した。若い世代が多く、新しい街づくり、コミュニティづくりへの意欲に満ちている。ニュースはA4判1ページだが、カラフルでよくまとまっている。ネットでも閲覧できるが、全戸配布を目指してほしい。

以上